事業区分　青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業

事業名　令和７年度 高校・大学生の体験活動支援推進事業 自主企画支援プロジェクト

[主　催]　国立阿蘇青少年交流の家

[後　援]　熊本県教育委員会　阿蘇市教育委員会

[期　日]　令和７年 11 月 30 日（日）

[活動場所]　国立阿蘇青少年交流の家

[参 加 者]　小学生 14 人、中学生２人

[スタッフ]　２職員、法人ボランティア２人

1　趣　旨

（１）「法人ボランティア像」の実現に向け、法人ボランティアが主体的に自主企画の立案・運営に取り組むことで、課題発見力・解決力、対人関係能力などの社会人基礎力を育成する。

（２）ボランティア活動を通じて多様な人々と関わり、自信と経験を積みながら、地域社会に継続的に貢献できるボランティア人材を育成する。

2　目　標

（１）法人ボランティアが、青少年の生活における課題を見いだし、その解決を目指して、より良い方策を多角的・多面的に考察し、協働して実践する力や態度を身につけること。

（２）参画する全ての法人ボランティアが、本事業を通じて、参加者に満足を提供できたことに対して達成を感じること。

3　事業展開

（１）企画・実施に向けて

事前打ち合わせ・準備		11 月 30 日（日）企画当日	
8 月 21 日	参加募集	9:40	開会式
9 月 5 日	ボランティア決定	9:50～10:00	アイスブレイク
9 月 15 日	打ち合わせ オンライン①	10:00～11:20	1 草原探検！トレジャーハント（オリエンテーリングミニ）
9 月 23 日	打ち合わせ　対面①		
10 月 5 日	打ち合わせ オンライン②	11:30～13:45	2 探検部のエネルギーカレー（野外調理）
10 月 28 日	打ち合わせ オンライン③		
10 月 8～9 日	打ち合わせ 対面②	14:00～16:00	3 松ぼっくり・落ち葉でクリマスツリー＆リースづくり
11 月 19 日	打ち合わせ オンライン④		
11 月 29～30 日	事業前日・当日	16:00～16:10	振り返り
12 月 18 日	振り返り・まとめ	16:15～16:30	閉会式　アンケート

（２）活動の様子



【探検部のエネルギーカレー作戦会議①】



【探検部エネルギーカレー②】



【探検草原探検！トレジャーハント②】



【クリマスツリー＆リースづくり】



【探検草原探検！トレジャーハント①】

4　評価、成果と課題

（1）評価

① 事業参加者の満足度（16 名全員回答）

質問	とても	まあまあ	あまり	まったく
①探検の仲間と話すことが できましたか？	11 人	4 人	1 人	0 人
②みんなと協力して活動ができましたか。	11 人	4 人	1 人	0 人
③自然の中にも、楽しいことがあると感じましたか？	11 人	5 人	0 人	0 人
④自然の中で遊ぶことはいいなと思いましたか？	12 人	4 人	0 人	0 人
⑤次もこのような活動に参加してみたいですか？	13 人	2 人	1 人	0 人
⑥「できた」「やった」と思う活動はありましたか？	はい	16 人	いいえ	0 人

アンケート結果から、子どもたちにとって活動は「楽しい体験」として受け止められており、自然の中での挑戦や協力の価値を実感する機会となったことが分かる。多くの参加者が仲間と話し、協力できたと回答し、「次も参加したい」と意欲を示している点は、仲間づくりや達成感が高い満足度につながったと考える。自然体験の新鮮さや仲間との交流、挑戦の楽しさが印象に残り、継続参加意欲を高める企画であったと評価できる。

② 企画・運営ボランティアの振り返りから

活動後に（①計画する力、②コミュニケーション力、③協力・協働、④リーダーシップ、⑤判断力・対応力、⑥子どもに寄り添う姿勢、⑦安全管理の視点、⑧やり遂げる力、⑨社会とのつながりの意識）を振り返った。その結果、コミュニケーション力・協力力・判断力・安全管理、さらに子どもに寄り添う姿勢については、2 名とも「自らの力を活かせた」として挙げており、活動中に積極的な関わりや安全配慮ができたことを評価している。

一方で、計画力とリーダーシップは共通の課題として挙げられ、やり遂げる力は評価が分かれた。これらの結果から、企画段階で役割分担の明確化や進行管理をさらに工夫し、主体性を引き出す支援や助言が課題として考えられる。

③ 保護者の気付き・感想から

自然の中で体を動かし、子どもが自分で考え行動できる体験であったことが高く評価された。親が参加しない形式や参加費の負担が少ない点も好意的に受け止められている。一方で、季節ごとのテーマ設定や参加しやすい工夫など、継続的な実施への期待が寄せられた。

（2）成果

○　ボランティアが目的を明確にしたことで、参加者は自然の中で仲間と協力し挑戦する楽しさや、デジタルから離れたオフライン体験の価値を実感し、「また参加したい」という意欲を高める企画となった。

○　企画ボランティアは、コミュニケーション力・協力力・判断力・安全管理、子どもに寄り添う姿勢の項目に「自分の力を活かせた」と評価して、状況に応じた柔軟な対応や子どもへの関わり方に成長の実感を得られた。

○　企画・立案から運営まで一貫して主体的に取り組み、課題発見力や計画力を発揮する機会となった。やり抜く力や互いの強みを活かす力を高めながら、地域社会に継続的に貢献しようとする意欲や関心をさらに深めた。

（3）課題

○　計画力・リーダーシップさらなる向上

職員が逆算型スケジュールや役割分担を提示し、進行管理のサポート体制の充実

○　主体性を引き出す仕組みの工夫

話し合いで意見を引き出しやすくするファシリテーションの工夫、定期的な進捗確認

○　判断に迷う場面への対応

子ども対応や安全管理の判断基準を事前に共有し、悩みに沿った情報提供を充実